

## 「村上隆のSUPERFLATMUSEUM」製作の動機

「村上隆のSUPERFLATMUSEUM」は売価350円の食玩です。

そのパッケージの中に封入されているフィギュアは「お菓子のおまけ」であり、本質的には「ただ」です。

つまり価値観が価格で限定されていません。これは私のキャリアの中でも異例な事です。

2003年NYのオークションハウス、クリスティーズにおいて、私の彫刻作品、「Miss Ko」は56万ドル、日本円で約6800万円(手数料込)で落札されました。これは日本現代美術作品の最高額を記録したようです。

今回リリースされる「村上隆のSUPERFLATMUSEUM」の中にもこの「Miss Ko」はエントリーされています。

「6800万円と“ただ”」。この格差により、価値観の混乱を呼び起こすこと、そこがこの「アート食玩」の胆です。

しかし、アートは株のように、小さなキッカケで価値変動が起こるもの。つまり、この企画は私の作品価値が暴落する可能性もある「危険な賭け」でもあります。ではなぜその賭けを行わなければならないのか？

そもそも、アートとはなんでしょう。

クオリティ？コンセプト？値段？いつの時代でもその基準点は揺れています。

私が考えるアートとは、価値観の入れ代わる瞬間を呼び起こせる作品や作家の登場。

その一瞬をアートと呼ぶのだと定義しています。

ですから今回の「アート食玩」における「ただ」な作品の提供は、価値観そのものを考え直せるきっかけを造る一瞬が勝負なのです。

但し、賭けは行わなければ結果は出ない。結果は神のみぞ知る、という「人事を尽して天命を待つ」このプロジェクトは、私一人の力で成し遂げられるものではありません。

発売は、おもちゃ業界をイノヴェートし続ける株式会社タカラ。コンビニエンスストア等への綿密なディストロヴァーションオペレート株式会社ドリームズ・カム・トゥルーが行い、本陣のフィギュア制作は、現代最高の造型職人集団で、メジャー・フィギュアブランドの株式会社海洋堂が担当しています。

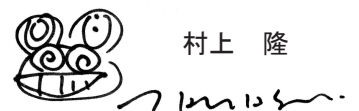
先の6800万円で落札された「Miss Ko」も海洋堂がプロデュースに参加していました。

その「アート食玩」の内容は、というと、食玩界の「反則」や、業界初の試みまで行われました。認定証、通しナンバーの発行。これに関しましては消費者の購買欲を必要以上に煽るとされ、業界内での自主規制の傾向がありましたが、企画当初から「アートの価値観」にこだわるという側面があった為、実現に至りました。それらの発行に加えて、通常食玩の定番である色違い、種類違いの3種以上のエディションの制作も行いました。

「アート食玩」だから可能になった、「価値の革命」を目指したチャレンジ、

それが、この「村上隆のSUPERFLATMUSEUM」なのです。

どうぞ皆さん、その革命の瞬間をその目で見届けて下さい。



村上 隆